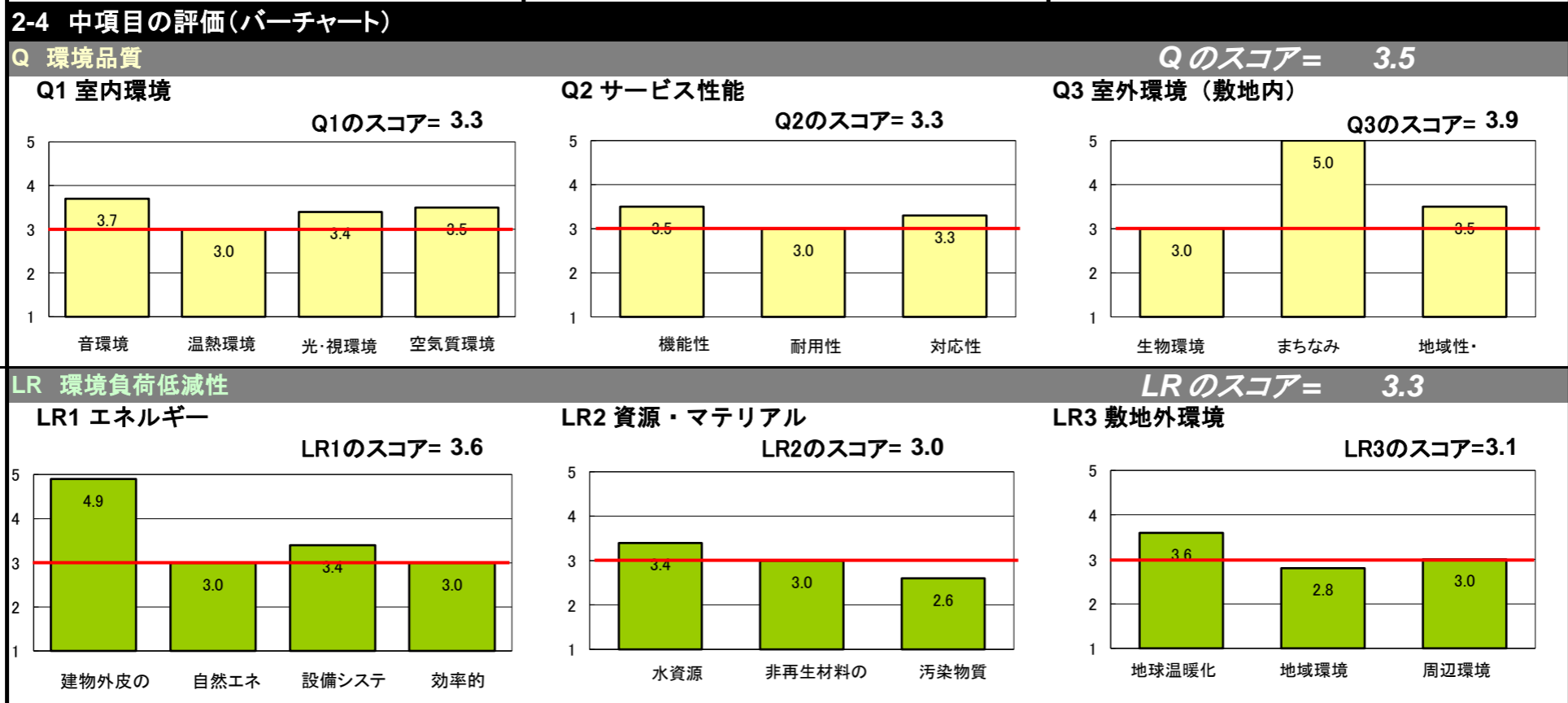
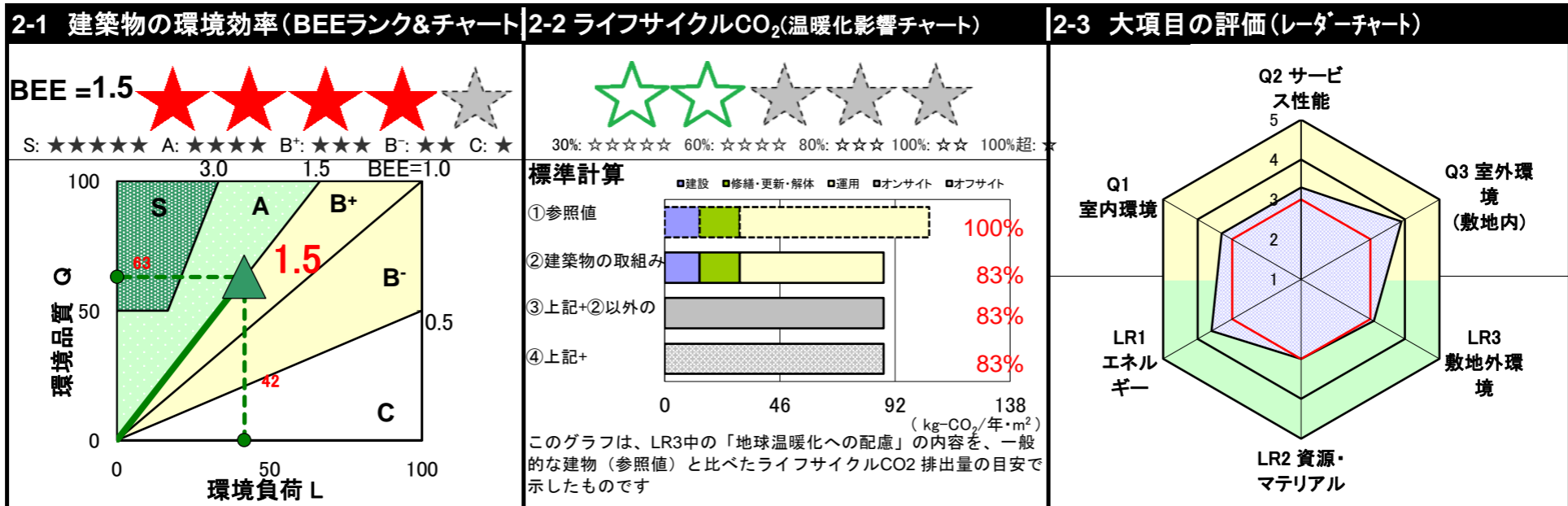


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋製造所 新食堂棟	階数	地上2階
建設地	愛知県大府市朝日町六丁目番地 他5筆	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	40 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,112 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2021年5月 予定	評価の実施日	2020年6月23日
敷地面積	2,826 m ²	作成者	宮田よし子
建築面積	1,690 m ²	確認日	2020年6月23日
延床面積	3,000 m ²	確認者	杉山光宏



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.6</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>19.6 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.0</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		重点項目						評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質															
Q1 室内環境															
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル															
1.2 遮音															
1 開口部遮音性能															
2 界壁遮音性能															
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)															
4 界床遮音性能(重量衝撃源)															
1.3 吸音															
2 温熱環境															
2.1 室温制御															
1 室温															
2 外皮性能															
3 ゾーン別制御性															
2.2 湿度制御															
2.3 空調方式															
3 光・視環境															
3.1 昼光利用															
1 昼光率															
2 方位別開口															
3 昼光利用設備															
3.2 グレア対策															
1 昼光制御															
3.3 照度															
3.4 照明制御															
4 空気質環境															
4.1 発生源対策															
1 化学汚染物質															
4.2 換気															
1 換気量															
2 自然換気性能															
3 取り入れ外気への配慮															
4.3 運用管理															
1 CO ₂ の監視															
2 喫煙の制御															
Q2 サービス性能															
1 機能性															
1.1 機能性・使いやすさ															
1 広さ・収納性															
2 高度情報通信設備対応															
3 バリアフリー計画															
1.2 心理性・快適性															
1 広さ感・景観 (天井高)															
2 リフレッシュスペース															
3 内装計画															
1.3 維持管理															
1 維持管理に配慮した設計															
2 維持管理用機能の確保															
2 耐用性・信頼性															
2.1 耐震・免震・制震・制振															
1 耐震性(建物のこわれにくさ)															
2 免震・制震・制振性能															
2.2 部品・部材の耐用年数															
1 躯体材料の耐用年数															
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															
4 空調換気ダクトの更新必要間隔															
5 空調・給排水配管の更新必要間隔															
6 主要設備機器の更新必要間隔															
2.4 信頼性															
1 空調・換気設備															
2 給排水・衛生設備															
3 電気設備															
4 機械・配管支持方法															
5 通信・情報設備															

3 対応性・更新性				0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3	
3.1 空間のゆとり		②	階高は4m。	0.3	4.2	0.31	-	-	-		
1	階高のゆとり			-	5.0	0.60	-	3.0	-	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40	-	3.0	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	-	
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30	-	-	-	3.9	
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	3.0	0.30	-	-	-	3.0	
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	木調をイメージした外装で、植栽もあり、良好な景観を形成してい	-	5.0	0.40	-	-	-	5.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.5	0.30	-	-	-	3.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	緑地を多く取り、舗装を少なく計画している。	-	4.0	0.50	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性										3.3	
LR1 エネルギー						0.40	-	-	-	3.6	
1 建物外皮の熱負荷抑制			屋根は二重折板を採用、外壁はALC・セメント板+断熱材。	3.0	4.9	0.30	-	-	-	4.9	
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			空調はEHP、給湯は電気式(エコキュート、電気湯沸器)を採用。	3.0	3.4	0.30	-	-	-	3.4	
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-		
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-		
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-		
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-		
4.1 モニタリング				-	3.0	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制				-	3.0	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル						0.30	-	-	-	3.0	
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4	
1.1 節水			節水器具を採用している。	3.0	4.0	0.40	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-		
1			雨水利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.67	-	-	-		
2			雑排水等利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.33	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0	
2.1 材料使用量の削減		② 独自	-	-	3.0	0.07	-	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	3.0	0.24	-	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	3.0	0.20	-	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	-	3.0	1.0	0.20	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	3.0	2.0	0.05	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	躯体と仕上材、設備が分別可能である。	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	2.6	0.22	-	-	-	2.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	2.5	0.68	-	-	-		
1			消火剤	-	-	-	-	-	-		
2			発泡剤(断熱材等)	-	2.0	0.50	-	-	-		
3			冷媒	3.0	3.0	0.50	-	-	-		
LR3 敷地外環境						0.30	-	-	-	3.1	
1 地球温暖化への配慮		①	一般的な建物と同等である。	-	3.6	0.33	-	-	-	3.6	
2 地域環境への配慮				0.3	2.8	0.33	-	-	-	2.8	
2.1 大気汚染防止			燃焼機器使用なし	-	5.0	0.25	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.5	0.25	-	-	-		
1		独自	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	-		
2		独自	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	-		
3		独自	交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	-		
4			廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	-		
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1		独自	騒音	-	3.0	1.00	-	-	-		
2		独自	振動	-	-	-	-	-	-		
3			悪臭	-	-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1			風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	-		
2			砂塵の抑制	-	3.0	-	-	-	-		
3			日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-		
1			屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	-		
2			屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	-		

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10
② 資源の有効活用			3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19
③ 敷地内の緑化			3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09
			外構緑化:19.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 名古屋製造所 新食堂棟

計画上の配慮事項	
総合	工事範囲内の緑化率は20%以上確保している。 外装は木調をイメージし、中間領域もあり、良好な景観を形成している。
Q1 室内環境	一般的な、室内温度 夏期26℃、冬期22℃を満たす空調を設置している。
Q2 サービス性能	1階階高を4mとし、事務室の天井高は2.8mを確保している。
Q3 室外環境(敷地内)	工事範囲内の緑化率は20%以上確保している。
LR1 エネルギー	太陽光は別途工事で設置予定。 空調はEHPを採用。 厨房・シャワー室の給湯は、エコキュート採用。
LR2 資源・マテリアル	節水器具を採用している。
LR3 敷地外環境	一般的な建物と同等である。
その他	特になし。